



コープと一緒に “エコ活” はじめませんか? Vol.2

～余分なCO₂を減らすために～

(二酸化炭素)



コープでは、組合員の皆さんと身近なエコを「知る・共有する・やってみる」きっかけづくりとしてエコ活に取り組んでいます。100年後にも美しい地球を残すため、「コープデリのエコ活」として、私たちの生活の中で ①CO₂ (温室効果ガス)、②使い捨てプラスチック、③食品ロス を減らすことをテーマに掲げています。今回はその一つ、CO₂をはじめとする温室効果ガスについて考えてみましょう。

地球温暖化と温室効果ガス

●地球温暖化って？

地球の平均気温が上がることを「地球温暖化」といいます。地球温暖化は、大気中にある「余分な」温室効果ガスが原因です。地球の平均気温は1880年から2012年の間に0.85℃上昇しました。そして、2100年には最大4.8℃上昇するといわれています。人間も発熱すると体に不調が起こるように、地球にも「気候変動」という影響が現れます。これが、地球や地球にすむ生きものにさまざまな影響を与えています。

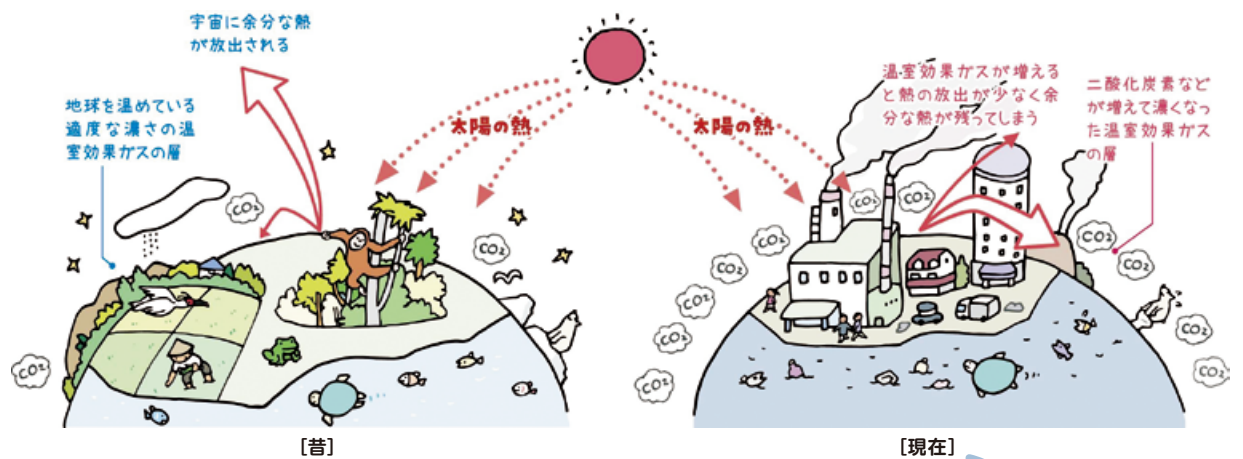
●温室効果ガスって？

昔は、CO₂などの温室効果ガスが適度にあることで、生きものが地球にすみ続けるために「ほどよい暖かさ」を保つことができていました。しかし現在は、化石燃料を利用したエネルギーを中心とした暮らしによるCO₂の排出や、CO₂を吸収してくれる森林の減少などにより、そのバランスが崩れ、余分な熱が地球に残ってしまっています。

地球温暖化がすすむと 例えばこんな影響が…

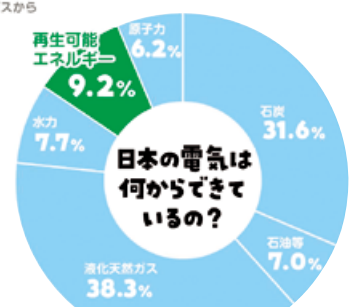
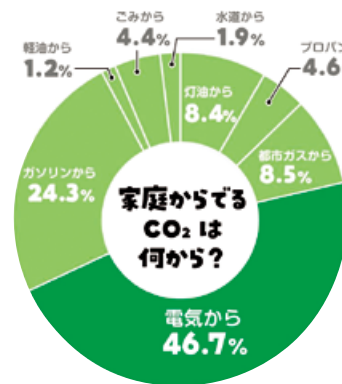
- 絶滅する動物や植物が増え、生物多様性が失われる
- 農作物が適切な気候で育つことができず、食料不足になる
- 水温の上昇により水が膨張し、海的水位が上昇

その他、猛暑や豪雨などの異常気象や、近年大規模化している森林火災の発生にも影響を与えているのではないかともいわれています。



家庭から出るCO₂は何から？

日本では年間12億4,000万トンのCO₂が排出されています。その約40%は発電が占めています。そして、家庭から排出されるCO₂も約47%が電気の使用によるものです。余分なCO₂を減らすしていくためには、節電やCO₂排出量の少ない「再生可能エネルギー」の利用を増やしていくことが大切です。



出典：国立環境研究所報告書2018年度の温室効果ガス排出量
：資源エネルギー庁2018年度におけるエネルギー供給実績

CO₂を減らすために 私たちができること

電気を節約する

再生可能エネルギー由来の電気を使う

車やオートバイのアイドリングストップを行う

紙や木材を大切に使う

など、他にもどんなことができるか考えてみましょう

お店から出た生ごみをエネルギーに ～バイオガス*発電～



コープのお店などから出る生ごみを使って発電するバイオガス発電所 (ニューエナジーふじみ野株式会社)

利用するエネルギーを低炭素に



物流センターの屋上に設置された太陽光パネル (野田船形物流センター)



宅配・物流トラックを電気自動車などへ切り替える検討・準備を進めます

など

*バイオガス…再生可能エネルギーであるバイオマスのひとつで、生ごみ等を微生物の力で発酵させて得られるガスのこと。

もっと詳しく知りたい方は「コープデリのエコ活」特集サイトをチェック!

次回は「使い捨てプラスチック」についてお知らせ予定です。お楽しみに!

